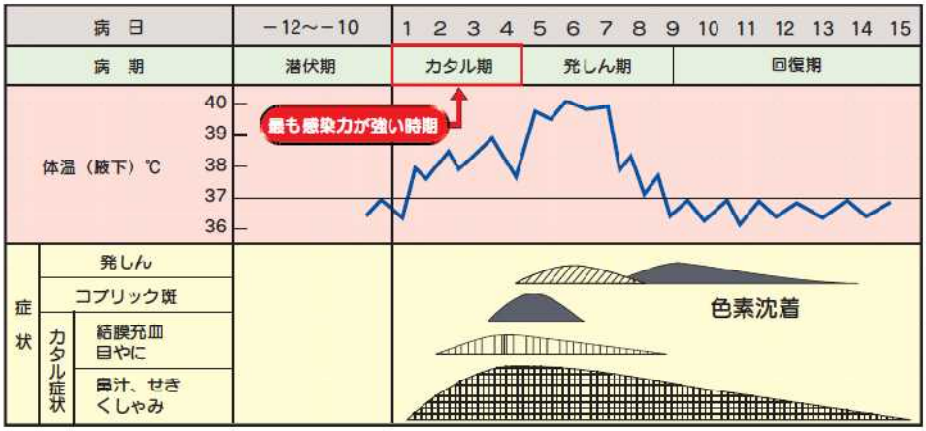
はしかにならない！
はしかにさせない！

麻しん排除計画における
乳幼児施設の役割

麻しん（はしか）の症状



藤井良知、西村忠史、中村健：小児感染症学、第1版、南山堂、東京、1985、pp.14より改変

免疫機能低下状態が数週間にわたって続く

麻しんであることに気づかずに行動 → 感染を広げる

「学校における麻しん対策ガイドライン」より

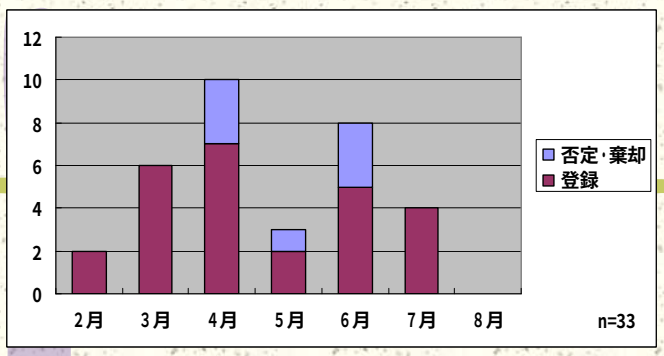
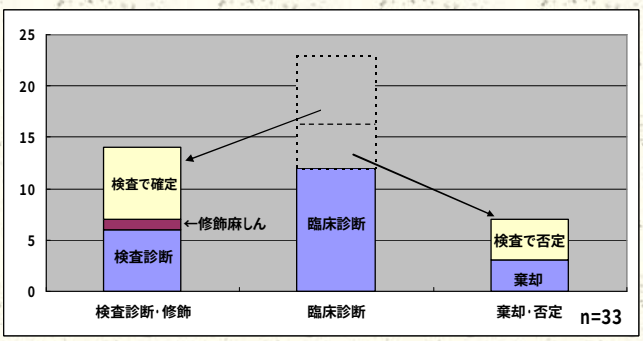


図1　発症月別届出数

図2　病型別届出数
（含む．検査変更）



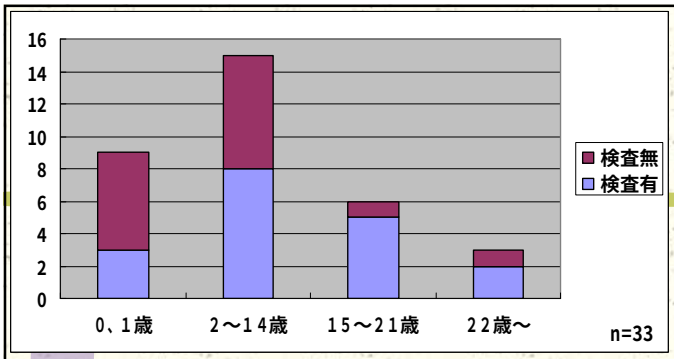
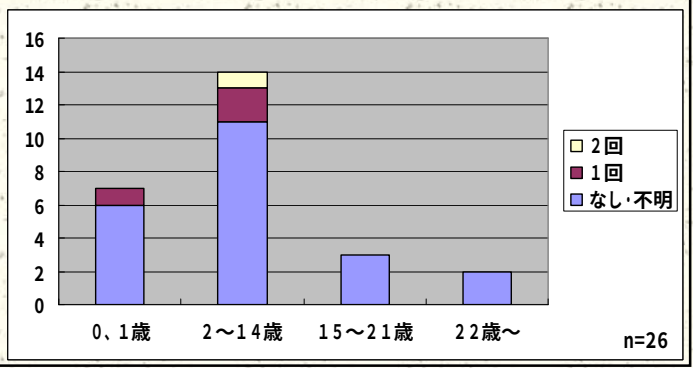


図3　検査の有無

図4　予防接種歴
（除く　否定、棄却）



排除計画の背景

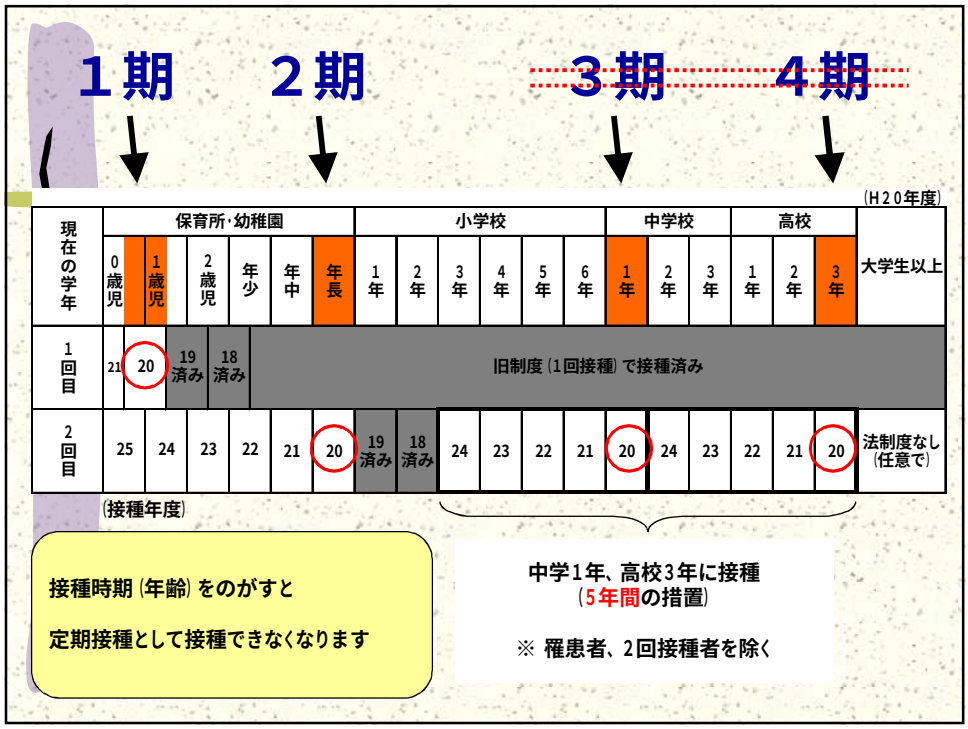
排除とは、、

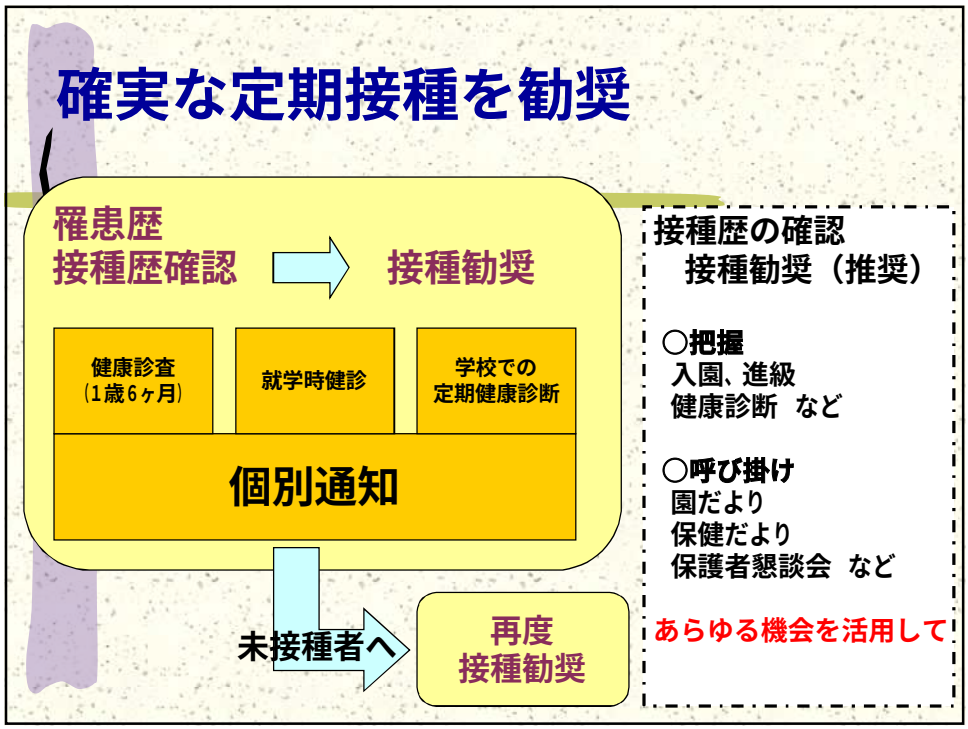
1年間に、人口100万人当たり1症例未満
かつ
ウイルス伝播が継続しない状態にある

- WHO
  2012年までに
  日本を含むアジア西太平洋地域で排除の決議
- 減少傾向だったが
  2007年
  10～20歳代を中心に流行、社会的混乱
- 強い感染力、重篤性、社会的影響
  しかし、予防接種により排除しうる

麻しん予防接種の変遷

- 昭51　任意接種で開始
- 昭53　定期接種に　　対象：1歳～7歳半
- 昭64　MMRも接種可能に
  （麻しん、風しん、おたふく風邪）
- 平　5　MMRを見合わせ
- 平18　MR　2回接種　対象：1歳、就学前
  （麻しん、風しん）
- 平20　中1生、高3生への2回目接種開始


1期
2期
3期
4期
(H20年度)
現在の学年
保育所・幼稚園
小学校
中学校
高校
0歳児
1歳児
2歳児
年少
年中
年長
1年
2年
3年
4年
5年
6年
1年
2年
3年
1年
2年
3年
大学生以上
1回目
21
20
19済み
18済み
旧制度（1回接種）で接種済み
2回目
25
24
23
22
21
20
19済み
18済み
24
23
22
21
20
24
23
22
21
20
法制度なし（任意で）
(接種年度)
接種時期（年齢）をのがすと
定期接種として接種できなくなります
中学1年、高校3年に接種
（5年間の措置）
※ 罹患者、2回接種者を除く


確実な定期接種を勧奨
罹患歴
接種歴確認
接種勧奨
健康診査
（1歳6ヶ月）
就学時健診
学校での
定期健康診断
個別通知
未接種者へ
再度
接種勧奨
接種歴の確認
接種勧奨（推奨）
○把握
入園、進級
健康診断 など
○呼び掛け
園だより
保健だより
保護者懇談会 など
あらゆる機会を活用して

任意の接種を推奨

1．職員

・医療関係者
・学校職員
・児童福祉施設職員

定期健診などの機会に
把握、推奨

2．生徒

実習生
受入れにあたって

医療・福祉・教育に係る
大学専修学校の生徒

実習があることを説明し
把握、推奨

3．海外旅行

・語学研修
・ホームステイ
・修学旅行
・クラブの試合、大会

昨年
メンバー全員が
足止めされました

発生状況の把握と対応

患者が多い
→集団発生調査

排除がすすむ
→症例調査、接触者調査

医師

・２４時間を目標に全症例届出
・当面は、臨床診断
→可能な限り検査診断へ

保健所

・積極的疫学調査
・拡大防止対策

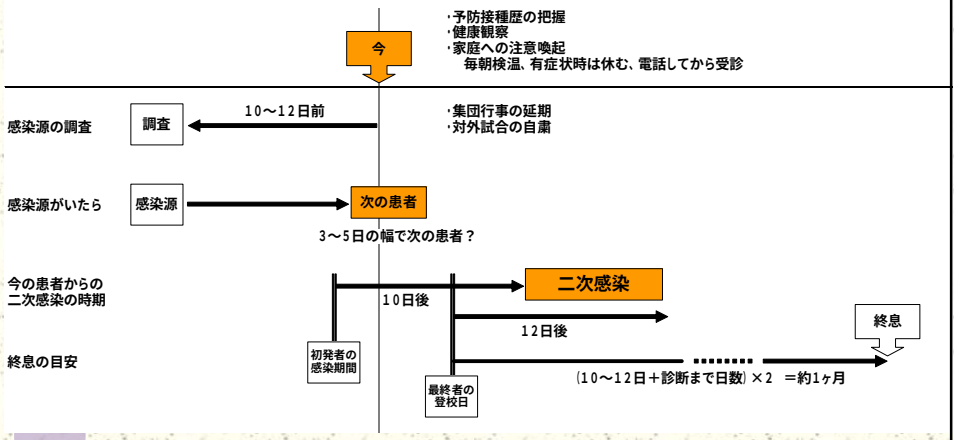
保護者

教育委員会、学校
幼稚園、保育所　など

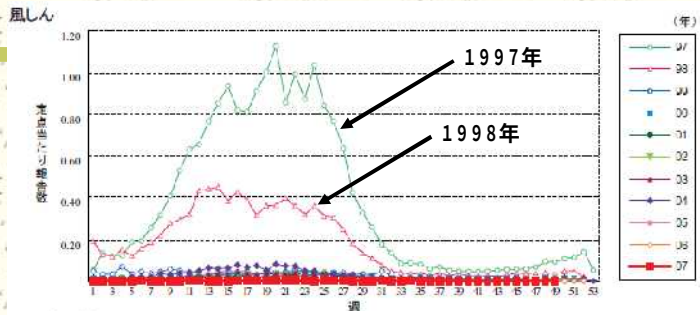
・集団発生、学級閉鎖の報告
・発生時の対応

患者発生時の対応

潜伏期間 ： 10～12日
感染期間 ： 発熱1日前～
発疹後4、5日まで
登校停止 ： 診断～解熱して3日経過



風しんの話題



- 3～5年周期で流行
  10年ごとに大流行（前回は、94年）
- 谷間の世代問題 （接種時期の変更で）
  S54,4,2～62,10,1生まれ
- 免疫なく、妊娠初期に罹患すると、先天性風しん症候群のおそれ